

入梅 (にゅうばい)

雑節*の一つで、今年は6月11日。
暦の上での梅雨入り。実際とは異なる。
昨年の関東甲信の梅雨入りは6月7日ごろ、
梅雨明けは7月6日ごろで、平年は梅雨入り6月8日ごろ、
梅雨明け7月21日ごろ。

※二十四節気以外の、季節の移り変わりを示す名称。
土用・節分などと同じ。

梅雨

(ばいう・つゆ)
梅の実が熟する頃の
雨季ということから。

五月雨 (さみだれ)

陰暦5月に降る雨で、梅雨と同じだが、
時期ではなく雨そのものをいう。
断続的にだらだらと続くことのためにも使う
(五月雨式・五月雨ストなど)。

菜種梅雨

3月中旬~4月の菜の花が
咲くころに降り続く雨。
春霖(しゅんりん)・春の長雨とも。

卯の花腐し (うのはなくたし)

梅雨のはしり。卯の花(ウツギ)を腐らせるほど
長く降り続ける雨。また、五月雨の異称とも。

氷雨 (ひさめ)

雹(ひょう)・霰(あられ)のこと。
また、晩秋・初冬に降る
冷たい雨、みぞれ。

こめか雨

雨滴のきわめて細かい雨。

驟雨 (しゅうう)

にわか雨、村雨とも。急に降り出して
まもなくやんでしまう雨。対して一様に
長く降る雨を地雨(じあめ)という。

白雨 (はくう)

にわか雨、夕立。

時雨 (しぐれ)

「過ぐる」から出た語。晩秋から初冬のころの一時的な通り雨。
朝時雨、夕時雨、小夜時雨、片時雨(一方では雨が降り、
一方では晴れていること)、村時雨(ひとしきり降ってはやみ、
また降る雨)などの語もある。

篠突く雨

篠をたばねて突きおろすようにはげしく降る雨。豪雨。
篠は、細くて群がり生える
小さい竹のこと。

ゲリラ豪雨

集中豪雨のこと。
気象用語としての正式名称は
局地的大雨。

雨模様

(あまもよう・あめもよう)
今にも雨が降り出しそうな
空の様子をいうが、最近では、
小雨が降ったりやんだりする、
という意味で使われることがある。

狐の嫁入り

日が照っているのに
雨の降る天気。
天気雨、日照り雨とも。

遣らすの雨

帰ろうとする人を
引き止めるかのように
降り始める雨。

雨に関する言葉



六月歳時記 二十四節気 七十二候

●6日(水) 芒種 「芒」(のぎ)は、稲の先にある突起のこと。そんな植物の種をまく

- 【螳螂生】「かまきり、しろうず」…… かまきりは、害虫を退治してくれる
- 【腐草為螢】「くされたるくさ、ほたるとなる」… 昔、腐った草がホタルになると信じられていた
- 【梅子黄】「うめのみ、きばむ」…… 梅の実が完熟、梅雨入りの目安

●21日(木) 夏至 一年で一番日が長い、暑さはこれから

- 【乃東枯】「なつかれくさ、かるる」… 夏枯草(かごそう)とは、ウツボグサのこと
- 【菖蒲華】「あやめ、はなさく」…… 梅雨の到来を告げる
- 【半夏生】「はんげ、しろうず」…… 田植えの終わり